



社会福祉法人 薄光会 広報誌

ま

ら

め

ま



第 3 号



豊岡光生園



湊ひかり学園



鴨川ひかり学園



三芳光陽園

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成17年1月31日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、豊岡光生園：〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1

TEL 0439-68-1711

三芳光陽園：〒294-0825 千葉県安房郡三芳村上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園：〒294-2854 千葉県鴨川市代 1297

0470-99-3311

湊ひかり学園：〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551(デイ)

0439-70-6552(通所)

園だより

「西」と「笑」

床に敷かれた二七〇cm×二二〇cmの大きな白い紙。極太の筆を二本合わせ、中心から筒をくくりつけて持ちやすく工夫した特大筆。

「どうせやるならダイナミックにやろうよ。例えば、職員を筆に見立てて墨をつけて転がすとか・・・。」と園長からのアドバイス。

「新春書初め大会」が始まりました。光生園の爆山先生は、政章さん、柳沢さん、まち子さん、駒崎さんの4名。さてどうなるのでしょうか？

「西」



初めて握る特大筆に悪戦苦闘の政章先生。表情や動きから、皆の期待を背負う緊張が感じられます。筆に墨をつけ(墨をつけた時点ですでに政章さんは墨だらけです)、何とか文字を書き始めました。

「あんちゃん違っよ、そこじゃないよー!」と外野からの声。

政章さんの表情がこわばります。腿をたたく手が早くなり、筆をもてません。紙の上に寝転んでしまいました。

そして、「口出しするから、集中力が無くなっただじゃないか」と、外の空気を吸いに走り去っていったのでした。

政章先生のとを受け継ぎ、柳沢先生の登場です。しかし、「は〜い」という掛け声は響き渡るのですが、一向に筆と足が進みません。足の進まない理由を尋ねると「腹減ったっちゅ〜」との返事が・・・

「私は座って、見ていたいのよ」と言っているかのように、しびしびと登場したまち子先生。登場の仕方とは裏腹に、なかなかの筆のすべりを披露します。そして、「やるときはやるのよ」と口元に笑みを浮かべ、目では座る椅子を探しています。

「笑」



両脇をアシスタントに支えられながらも、一筆一筆確実に筆を進めていく駒崎先生。ヨンの様の微笑みに勝るとも劣らない駒崎スマイルを、会場の全員が期待する中、もくもくと筆を

進め、最後の右はらいです。

アシスタントの証言によると、筆を握る手に力が入り、目を見開いたとのこと。右はらいの方向へ足を向け、一歩一歩ゆっくりと進んでいきます。まるで、駒崎先生の今年一年を予感させるようなびのびとした力強いはらいでした。はらい終わると、そのまま筆を捨て去り、小走りに自分の席へ。会場の拍手より、疲れた体を休めたい様子。しばらくして、夢の中へ出かけて行きました。

伊東



『拝啓、雲の上の鈴木理事長様』

拝啓、雲の上の鈴木理事長様。きつと雲の上でも不安で仕方なかったと思いますが、四月から三芳光陽園の施設長となりました私、神谷は、入所者、職員、その他法人内外の諸先輩方に支えられ、なんとか新しい年をむかえることができました。平成十七年の年頭に当たりまして、まずはご報告させていただきます。

平成十七年は、介護保険制度の見直しが行なわれます。介護保険制度は「措置から契約へ」という社会福祉基礎構造改革のひとつとして始まった制度ですが、今回の見直しは、施設利用者にも居住費の負担や食費の自己負担増を検討しているようで、年金生活のお年寄りたちにはかなり辛い方向での見直しのようです。契約できるお年寄りを更に限定してしまう方向に進みそうな気がしてなりません。また、安房郡六市町村が合併し、新に『南房総市』が誕生するようです。

色々な意味で不安定な年ですが、三芳光陽園は、「三芳光陽園流個室ユニットケア」と「三芳光陽園流ターマナルケア」の模索を始めます。平屋建設建物の良さを活かしながら、個室ユニットケアとグループユニットケアをつまぐ組み合わせ、温泉の力をかりて、「一日お引き受けしたからには、生涯お世話する」という法人の理念を实践する施設として、新しい取り組みを始めていこうと思います。

この問題は、三芳光陽園一施設だけの問題ではなく、法人全体の問題として取り組んでいかなければなりません。この一月から法人政策委員会が立ち上がりました。法人の問題を施設長や本部事務局のみで話し合うのではなく、そこに次代の法人をになう若い職員たちにも参加してもらい、法人としての方向性を決定する経営会議や理事会に意見の具申をしていくのです。保護者や家族の方々にも加わっていただきます。自分たちの不慣れな、いわゆる経営、採算、利益と言った視点からの意見をいただければ、より現代的な法人の政策が出来るものと考えます。

時代は一人の英雄の出現を決して望んではいけません。長嶋茂雄の『ひらめき』のような政策は理事長だからできたもので、私たちには真似はできません。今の時代には無理があります。利用者、入所者と身近に接し、利用者、入所者が本当に望むものを感じた若い力の結集こそが、今後の法人の進むべき道だと考えます。たまたま法人の全施設を経験した（凄ひかり学園に関しては施設整備の協議に加わっただけですが）私は、若い力を結集する架け橋になれたらと思っています。

『もしかすると、理事長もそう思って私を異動させていたのかも』
などと感じながら……。

平成十七年一月

三芳光陽園 施設長 神谷 亨

『定年を迎えて』

三芳光陽園で寮母として過ごした十三年間。

お年寄りの笑顔に触れると心が和らぎ、泣き顔を見ると悲しくなる、そんな日々の繰り返しでした。しかし、毎朝「おはよう」と窓越しに手を振り、仕事が終わると「明日来る？ 待っているね」と私の帰りを見送ってくれ、些細な事でも「ありがとう」とお礼を言ってくださるお年寄りたちの、その一言、一言を有難く感じながら、その気持をより深く察した介護を心がけてきました。

心と心のつながりを深めることは難しいことですが、そのためには相手を思いやる日常の会話が大切なのです。それを積み上げていくことで心のつながりを深めることができるのです。私は人生最大の勉強をさせていただきました。微力な私も皆様に支えられお陰様で六十歳を迎えることができました。皆様の今後の御健勝と御活躍を心よりお祈りいたします。



寮母 平島照枝



『新入所者紹介』



◎新入所者の姉妹を紹介します。県内の施設と一緒に入所されていましたが、先にお姉さんの喜美子さんが入所され、この度、妹の幸子さんが入所となりました。

お二人とも穏やかで物静かな性格で、職員が声をかけると笑顔で応じて下さいます。光陽園での生活にも慣れてきており、バス外出には毎回、姉妹で手をつなぎ、仲良く一緒に参加されています。幸子さんは、視力が殆んどありませんが、お姉さんと一緒にいることで安心されているようで、いつも笑顔で過ごされています。

◎十一月に豊岡光生園から光陽園に移られました橋本さんを紹介します。鴨川ひかり学園の短期入所も経験されており、神谷施設長に続き、二人目の法人施設完全制覇者です。

外出が好きでバス外出には毎回参加されます。食欲も旺盛のため、少々太り気味なのが心配されます。ひげが濃く、きれいにひげが剃れると大変喜ばれます。性格的には女性好きで、ちょっとエッチな所のあるお茶目な方です。夜間は寝るといっては起きてきて、起きてきては寝ると言っ。夜は寝てください！笑顔が素敵な橋本さんでした。



☆現在、県では知的障害者の高齢化が大問題となっているようです。知的障害を持たれたお年寄り（痴呆）症のお年寄りと一緒に生活していけるのか？といったところが焦点だそうです。

三芳光陽園では、開園当初から知的障害を持たれたお年寄りと認知（痴呆）症のお年寄りが一緒に支えあい助け合い生活してきました。特別なことをしているとは思いません。今回の新入所者も、あっとい間に仲間にとけこんで、笑顔で過ごされています。

『喫煙者の皆様へ〜館内禁煙のお知らせ〜』

地球ではタバコを吸える場所がどんどん減らされております。施設も例外ではありません。三芳光陽園では、法人内の他施設に先駆け、世の情勢に鑑み、入所者の健康への配慮のため、七月より館内は**禁煙**とさせていただきます。

喫煙をこよなく楽しみにしておられる入所者（タケさんとハルさんの二人だけですが）は例外といたしました。お二人がおいしそうに吸っているのを見かけても、決して辛く当たったり、便乗して脇でタバコを吸い始めたりしないようお願いいたします。

将来は完全禁煙を実施したいと思っておりますが、今日もおいしそうにタバコの煙をくゆらせているタケさんとハルさんの顔を見ていると、「たばこやめたら」なんて言い出せません。お二人にとっては、タバコが健康のバロメーターかもしれませんね。完全禁煙は、まだまだ先になります。



『珍客来園』

光陽園の癒し犬



花子

十二月五日、昨年に続きOJPC福祉犬育成協会セラピー犬たちが来園しました。ラフドール・レトリバー、ダックスフンドなどの6匹の犬たちがお年寄りを楽しませてくれました。

セラピー犬たちは利用者一人一人の膝の上や目の前で様々な表情や仕草を見せてくれました。犬好きのお年寄りたちは、ニコニコと嬉しそうな表情をされたり、赤ん坊のようになでまわされたりしていました。中には嫌そうな表情をされる方も。皆様、様々な関わり方をされていましたが、犬達と触れ合うことで心癒され、穏やかな一時を過ごす事ができたようです。

サンタの衣装を身に着けたセラピー犬には「かわいくい」との歓声が上がりました。シグザグ走の演技には拍手が響き渡っていました。休日返上で参加した職員もいた程で、入所者、職員ともに癒された楽しい一時でした。



学園新聞



「ひかり農園日記」



湊ひかり学園開園早々、みんなでクワとスコップを手に荒地を耕して作り上げてきた「ひかり農園」。今回から利用者が日記(独り言?)を付けていってくれます。今日は最近、農作業を頑張っているトモノリさんの番です。

* * * * *

あゝ寒っ。せんせえ、早く中に入ろ〜!えっ、まだやるの?もっ。あ、どうも。頑張ってるなんて紹介されちゃったトモノリです。でも寒くて寒くて早くもくじけそう。えっ、何をやってるかって?。春に備えて畑を広げてんだよ。今年は昨年以上に沢山の野菜を作るんだけど、と言っても才し、昨年は色々訳あって作業はあまりやらなかったな。今年はもっとやってみようか?。ん、この前の青梗菜のスープ、うまかったな。あれも農園で獲れたやつだよな。サラダのシタスもそうだって言ってた。そろそろ獲れそつな野菜はあるのかな?。白菜、大根、春菊とカブか……。野菜は寒くても少しずつ大きくなっているんだな。

えっ、オシ?あったかくなったら頑張ります!。今日は終わりっ。せんせえ、先に中入るね!。
 (あっ、ちょっと待ってよ。あったかくなったらっいていっだよ!。ん、でもほんと寒いよなあ……。オシも中に入ると、今日はおしまい。 職員D)

「1人でのご飯」



誰もが楽しみにしている食事。「食べる」という事は人間の本能の一つです。食事中こそ、その人の本当の姿を見る事が出来るのかもしれない。

★お肉に目がないマサノリさん。自分のお肉は自分で守ります。

「マサノリさん、お肉切りましょうか?」
 「なにを(訳:オシのお肉に触るな...)」
 右手に箸、左手をバリケードにして周囲に人を寄せ付けません。

☆うれしくなるとバタバタ言ってるモモちゃん。パンにシヤムをつけても「バタバタバターッ」、マーガリンをつけても「バタバタバターッ」、シヤムとマーガリンでお口はベタバタベタッ。

★大きなエビフライに一瞬たじろいだケイちゃん。でも一瞬で平らげて、私の皿に手を伸ばし、じっと

私を見つめ一言、

「エッ、エッ、エヒー」

「やっ、やめてー!」

☆いっになく食が進むミキさん。

「ミキさん、おみそ汁飲みましょっか?」

「.....」

「ミキや〜と」

「〜GGGG」

お腹一杯で眠り姫に変身したミキさんでした。

★落ち着きのないジュンイチさん、隣のテーブルの職員が気になって仕方がありません。どうやら、その職員に食べさせてもらいたいみたい。ねえ、ジュンちゃん、私(心は若い女性職員A)じゃ駄目なの?。

☆みんなにお水を注いでくれたナオヤさん。「ありがとう」とお礼を言っと「そんなことないよ」と謙遜しつつ、すかさずお礼を言った人のコップの水を飲み干してしまいます。オッ、オシのだよ!。

「編集者から一言」



*「学園新聞」の題字を寄席文字の大家、橘右近の最後の弟子、右門さんに書いていただきました。新宿末廣亭、その他にも筆耕活動をしています。

鴨川ひかり学園

ひかり通信

『スマイル』

♪ 涙をふいて 空を見上げて 君の微笑みが 世界
を変える スマイル♪

この『スマイル』という歌、クリスマス会企画担当の井上さんが、歌詞を見て感動し涙を流したということで、クリスマス会の職員バンドで歌う事が決定しました。

十一月後半から何回歌ったことでしょうか。利用者が、『スマイル』に反応するまで、活動中に歌を流し、バス外出で流し、クッキングの時に流し、午前中の活動で歌い、やがて利用者の頭の中にスマイルの歌がリフレインして・・・。

♪ 同じこの地球に生まれ 僕らは生きている 意味のない事なんて 一つもないんだ

足りないものを探して 争い合う事よしも

そのままの君が 何より素晴らしいから 一人ぼっちの夕暮れの帰り道 例えば そんな時だって いつも 涙をふいて 空を見上げて 君の微笑みが 世界を変える スマイル

みんなの笑顔で世界を変えよう！スマイル

小原

『房総半島三十一万キロ』

わしは、鴨川の在で送迎を生業としておる通称『紺バス』じゃあ。

走り始めて早三千日。走った距離は三十一万キロと、我ながら「よい走ったもんじゃない」と驚いておるんじゃないがな、目をつぶると四季の折々の風景が想い浮かんで、いー気分じゃよ。

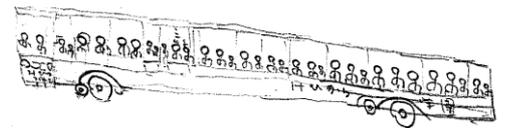
おう、そういえば去年は嵐が多くてなあ。待っている客人が難儀しているんじゃないかと、豪雨や強風に歯を食い縛って立ち向かって、エンジンを奮い立たせて走り続けたんじゃない。さすがにぜーぜー息が切れてなあ、到着した時はほっとしたもんじゃない。

「わしも年じゃなあ」と柄にもなく弱気になったとき、思い出したんじゃない。一年前の相棒の言葉を・・・。

「紺バスよー。お前はわしより若い。ひかり学園のお客人の為に頑張ってくれ。でっかい記録も夢じゃないぞ。」と言って引退していった『青バス』を。

なあに、あとたった一万キロで地球を八周じゃ。へっ、わしだって、んー(コキッ) まだまだ若い者にゃ負けんぞー。(「ホッ」)

絵 広瀬正明



『未来予報図作成委員会』

「今度の木曜日バスあるの?」と、月曜日のバス外出時、まだバスが動き出す前の問いかけです。また、十一月に入るとすぐに「来月お祭りあるの?」と、こんな調子で行事や活動の情報を先取りしたい方々がいらっしやいます。(ちなみに十二月のお祭りというのはクリスマス会です。)

昼食のメニューや日々の活動、送迎時の運転手や添乗者についてもこんな調子です。

ふと、彼らは今日の活動に満足していないのではないか、もっと自分達でやりたい事があり、それを我々にアピールしているのではないだろうかという思いに駆られました。

彼らが毎日の活動をより一層楽しむ為に、活動予定表から『未来予報図』を作成し、我々に「活動の企画を頑張れよ、期待しているよ。」とのメッセージを送っているのかもしれない。

未来予報図作成委員会の期待に心えるよう努力していくから、お願い、止めて、耳元で大きな声で聞くのは・・・心臓に悪いから。

中川



ちよつといつぱく

「祝・成人」

人生で最初の大きな節目となる「成人の日」。今年も四名の利用者が成人を迎えられました。おめでとうございます。

*写真は本人、保護者の承諾を得て掲載しています。

湊ひかり学園



直哉さん

「ご成人おめでとうございます。大人の仲間入りはされましたが、やっぱり直哉さんはいつまでも変わらずに、これからもみんなを笑わせて下さい。」

川名



奈々さん

奈々さん、ご成人おめでとうございます。かわいい女の子から素敵なお大人の女性へと少しずつ磨きをかけていきましょう。笑顔をお忘れずにネー！」

緒形



昇一さん

昇一さん、ご成人おめでとうございます。これからは大人の一人として、日々の生活の中で自分で出来る事はどんどんチャレンジしていきましょう。

たまにはお酒でも一緒に飲みましょうよ！」

下田

鴨川ひかり学園



恵理さん

鴨川ひかり学園にて、大好きなお父さん、お母さんと一緒に賑やかな成人式を行いました。おめでとうございますよ、恵理さん。

川名

「VOICE」

広報紙「きらめき」について保護者の方々から寄せられたご意見、ご感想をご紹介致します。

・字が大きくて見やすいです。どうしても自分の子供がお世話になっている施設の記事ばかり見えてしまいましたが、楽しく読ませてもらいました。

・各々の施設の表現もあるかと思いますが、枠取りを統一した方が見やすいのでは、と感じました。

・「きらめき」の表紙の写真を見て、子供が覗き込んできました。

「平日は毎朝どこへ行くの？」と聞くと湊ひかり学園を指差して「ニニニ」笑顔。

「土、日曜日（に光生園に行く時）は？」と同じ質問に光生園を指差し、

「どう？間違わなかったでしょ！・・・」と得意顔です。

・広報紙という事で自画自賛になりがちな面もあるかとは思いますが、更なる内容の充実を期待しております。

・薄光会のマーク（ロゴ）、いいですね。色使いが明るくてバスやフロンはどこを走っているも、「あっ、走っているな。」とよく目立ちます。

（原文のまま掲載してごまわ。）

【編集後記】

薄光会機関誌『きらめき』第三号をお届けします。皆様からのご意見を取り入れながら、利用者たちの『元気』をお届けできたらと思っています。

（法人広報委員会）

風と語ろう



今回は利用者のお正月の様子を、保護者に投稿してもらいました。

「主食はポップコーン」

ゆうべは、久しぶりの我が家のせい、ベツトインしても、派手な折り込み広告を指先で切り裂きながら、一晚中奇声を発し何処ぞの星と交信して居りました。そんな訳で、元旦と言うのに我が家の御曹司は未だ爆睡中。お陰で家族は睡眠不足。

然し、元旦ぐらいは人並みに家族揃って祝おうと、無理やり寝床から引きずり出し、食卓に座らせたのですが、人類の暮らしにはまったく無関心な彼。増してや、正月の風習など・・・折角作ったおせちや雑煮などには目もくれず、一口も味わおうとは致しません。其の内、全然箸をつけないでは、作ったお袋さんに申し訳ないとも思ったのか、隣でチビリチビリやっていた小生のお屠蘇を、突然

横取りするや、ゴクンと一気に呑み干し、義理は果たせたとばかり、サッサと炬燵に逃げ込んでしまいました。その様な訳で、今回も彼へのご馳走は、いつもの帰宅時特別食（カレールイス、天婦羅、カヤクご飯、青混じりの海苔、回鍋肉、焼蕎麦等）になりました。寄る年波と、寒さには勝てないのでしょうか？ 恒例の玄關で素っ裸の水遊びは、去年の冬から中止して居ります。此れで、正月早々来客がビックリ仰天逃げ出す場面もなくなりました。



その他、主食のポップコーンは相変わらず、一日大二袋。ペロリと平らげ、まだ足りないの不満足。お店の人は、正月早々ポップコーンばかりこんなに買い込んで、何するの不思議に思っていることでしょう。何れにいたしましても、世間ではやれ地震だ大津波だと世紀末の感さえ有ると言うのに、我が家はいたって平穩、久しぶりに穏やかな正月でした。光生園にお世話になって十七年、何でも食べられる様になりました。自傷も殆ど無くな

りました。最近は変わった物も余り口にしなくなりました。何よりも穏やかな顔つきになり、僅かではありますが、時々アイコンタクトさえ出来る様になりました。そして、今でも帰宅の度に少しずつだが変って居ります。

然し、欲を申せば、当人にはそんな気は更々無いのですが、奇声を発し他人を齧ったり、唾を吐き掛けたり、自分の靴底を舐めたり、を止めさせてやりたいと思っ居ります。だが、敵もさるもの、一つ改善されると、又一つ難題を発明し、なかなか此方の思うようには参りません。そこで課題として、帰宅時にせめて自分が切り裂き散らした紙切れくらい屑籠に捨てさせようと、付きっきりで根競べをして居りますが、一寸目を離すと、すぐにズルケちっとも捗りません。

やっぱり、長い人生楽しみを見つけないがらのんびりこの子と付き合っていくっきゃ無いのかなと思っております。

ゆうじの父ちゃん

